

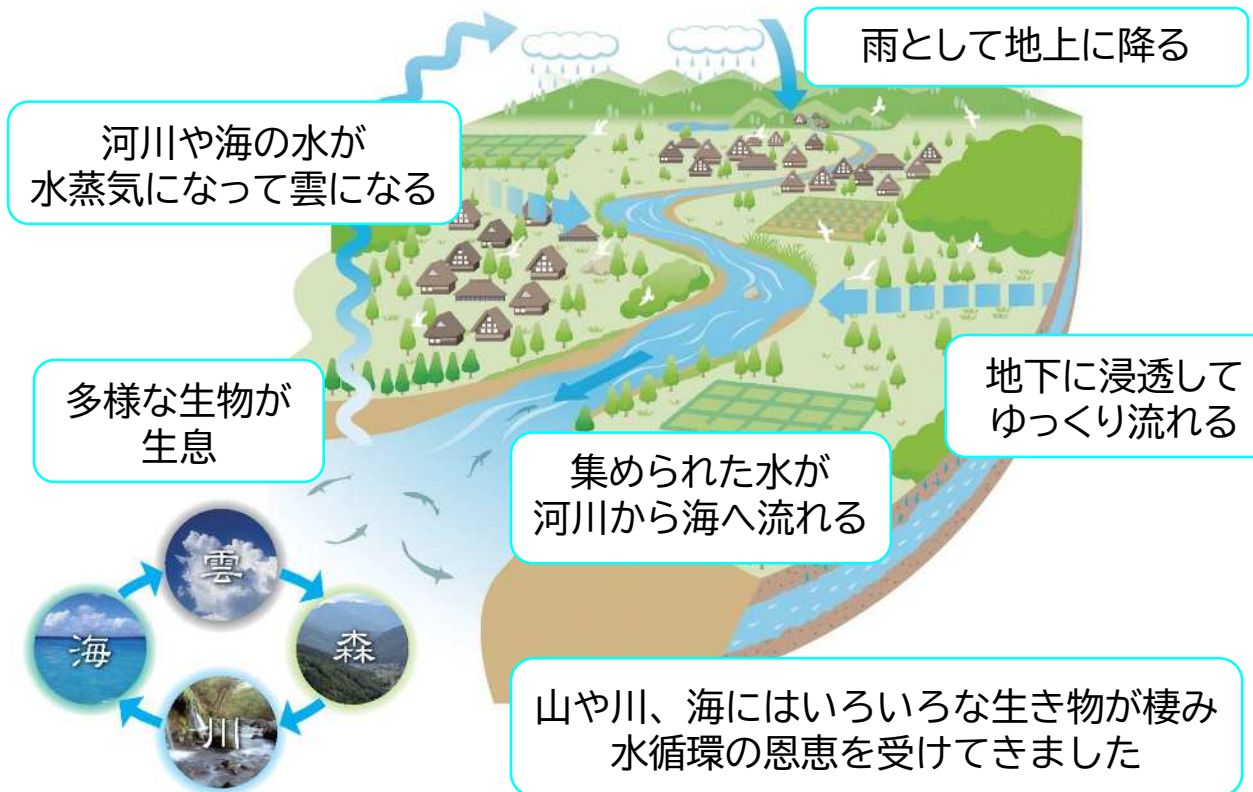
あいち水循環再生基本構想と 水循環再生地域協議会について



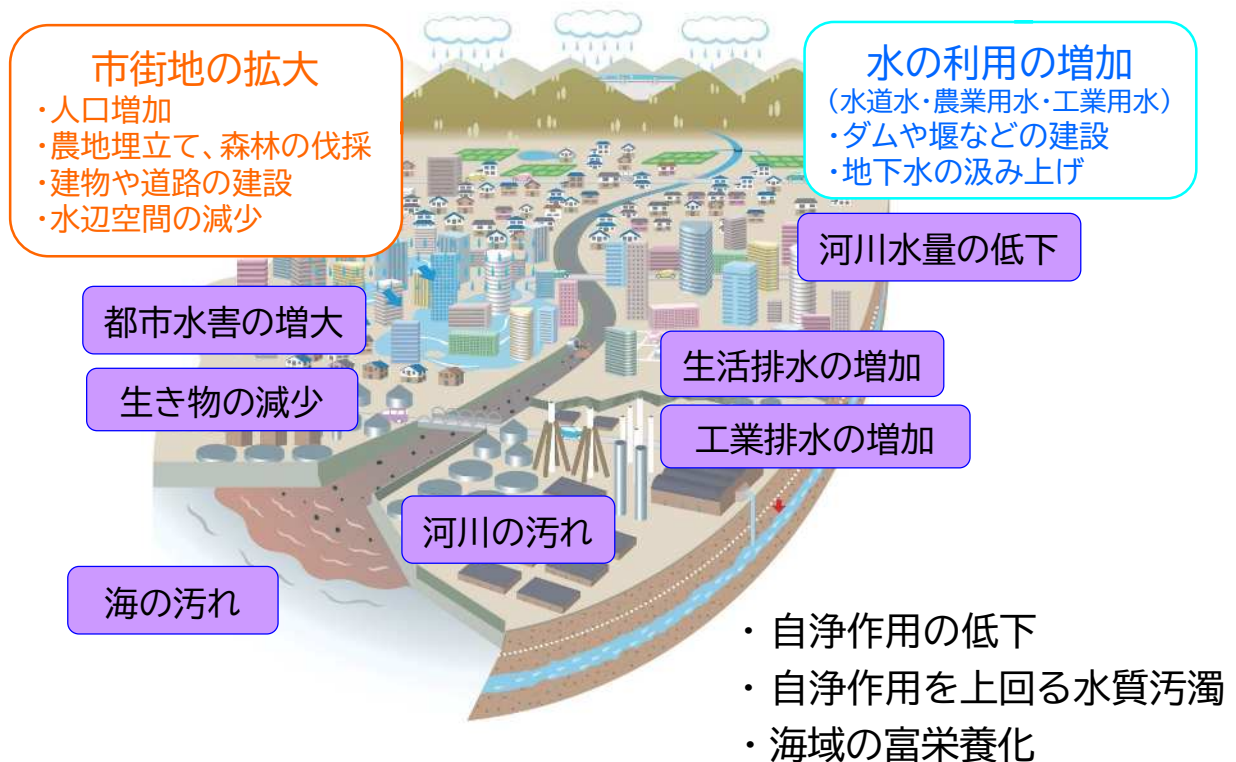
あいち水循環再生基本構想と水循環再生地域協議会

- 1 水循環(水環境)の再生
- 2 愛知県の水環境の状況
- 3 愛知県の水質保全施策
- 4 あいち水循環再生基本構想
- 5 水循環再生のための取組
- 6 流域モニタリング一斉調査

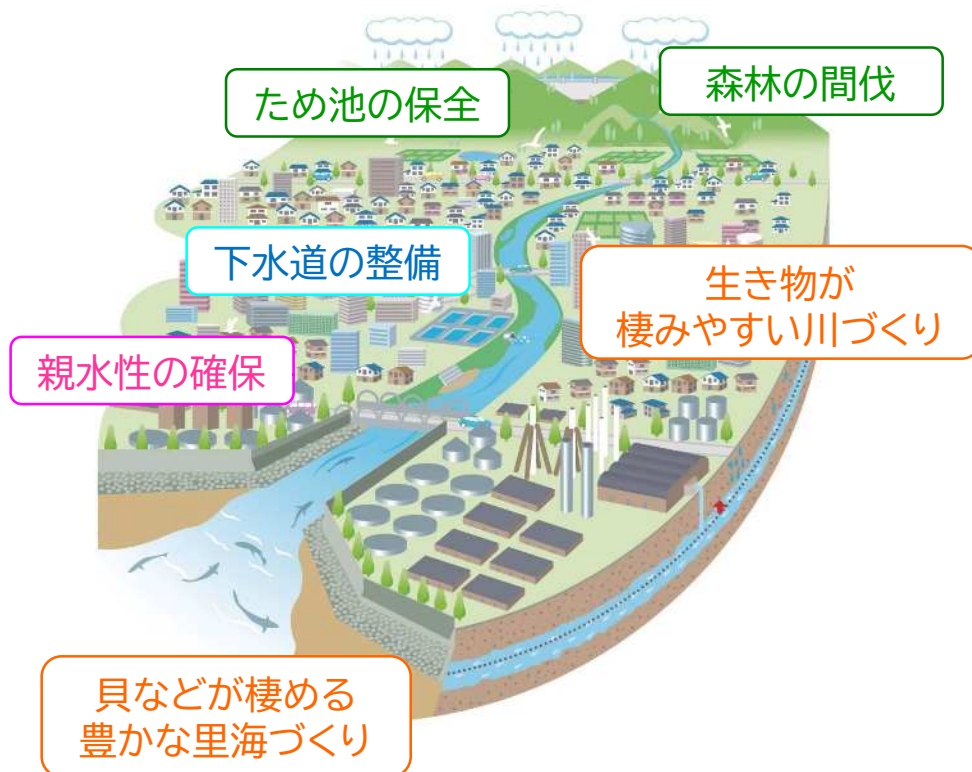
(1) 水循環のしくみ



(2) 高度経済成長に伴う水循環の問題



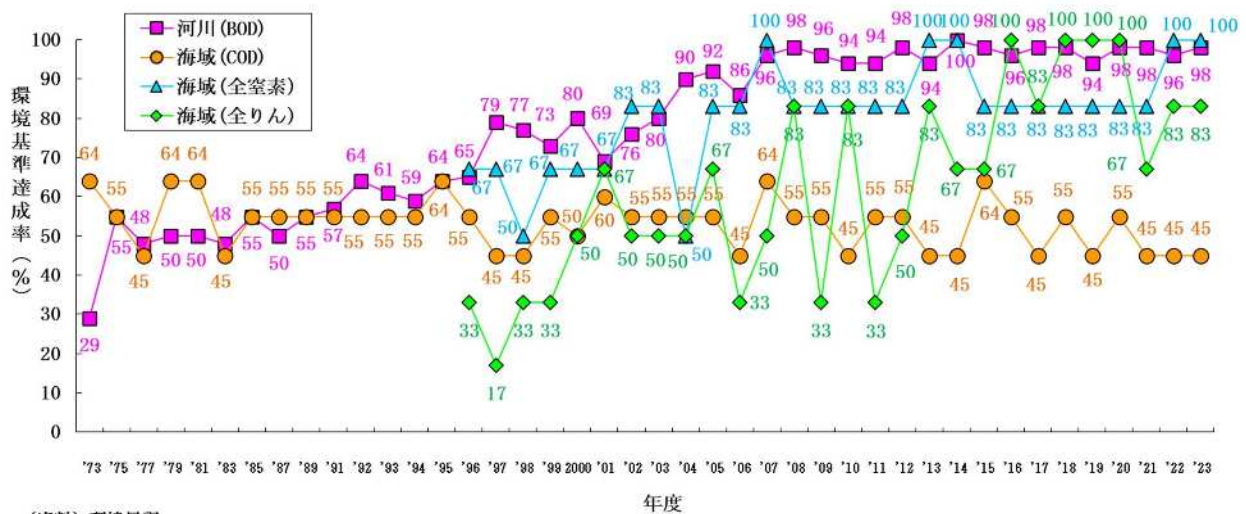
(3)健全な水循環（水環境）を取り戻すために



あいち水循環再生基本構想と水循環再生地域協議会

- 1 水循環(水環境)の再生
- 2 愛知県の水環境の状況
- 3 愛知県の水質保全施策
- 4 あいち水循環再生基本構想
- 5 水循環再生のための取組
- 6 流域モニタリング一斉調査

(1) 水質環境基準の達成率（県全域）



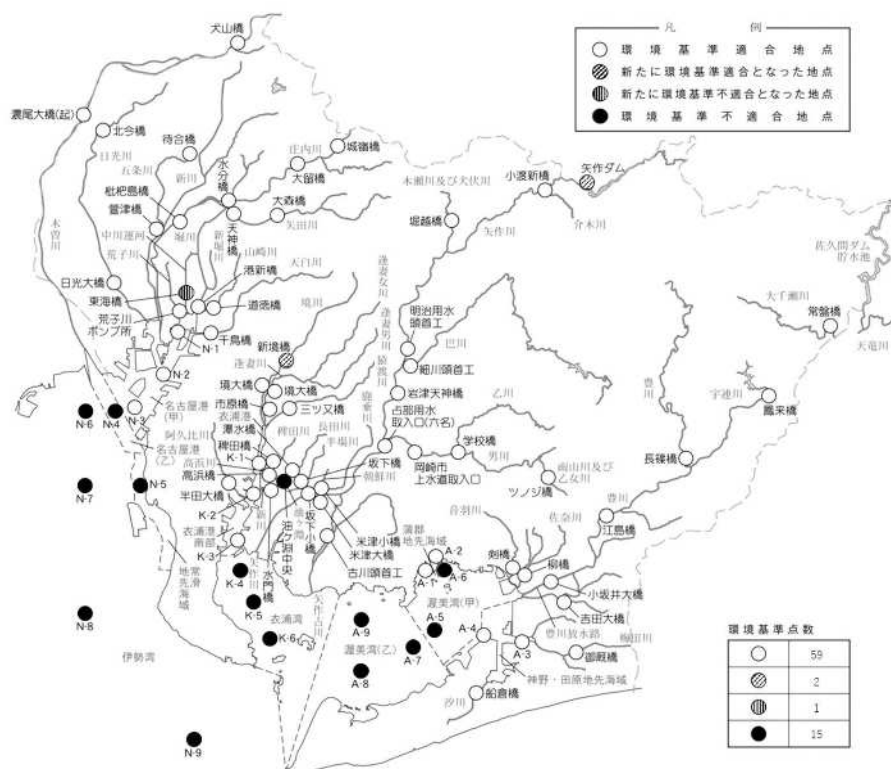
(資料) 環境局調べ

(注) 達成率(%) = (達成水域数) ÷ (総水域数) × 100

<達成率の長期的な推移>

- ・ 河川のBODは改善傾向（ここ数年間は90%以上を維持）
- ・ 海域のCODは概ね横ばい、全窒素及び全りんは改善傾向

(1) 水質環境基準の達成率（県全域）



(2)赤潮の発生

赤潮

プランクトンが異常に増殖し、海や川、運河、湖沼等の色が赤色や褐色に変色する現象



(3)苦潮(青潮)の発生

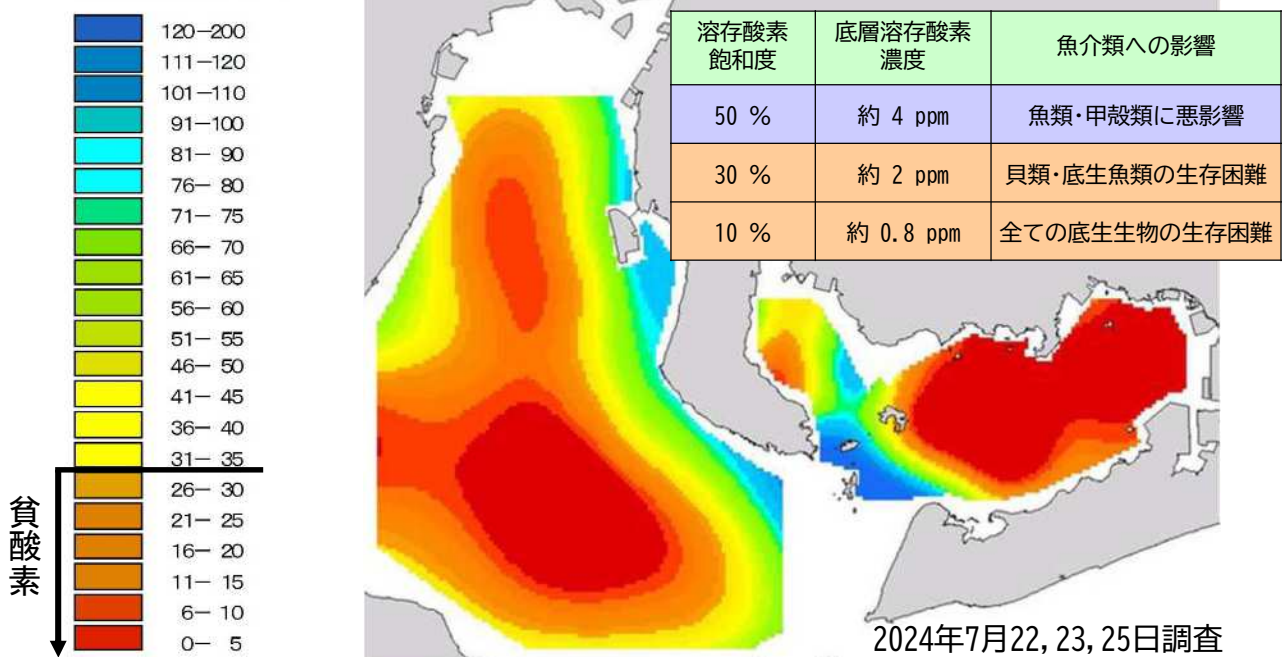
苦潮(青潮)

海底付近の貧酸素水塊が、強い風などにより表層に湧き上がり、海面が青色に変色したり白濁する現象。魚や貝の大量死など大被害をもたらすことがある。



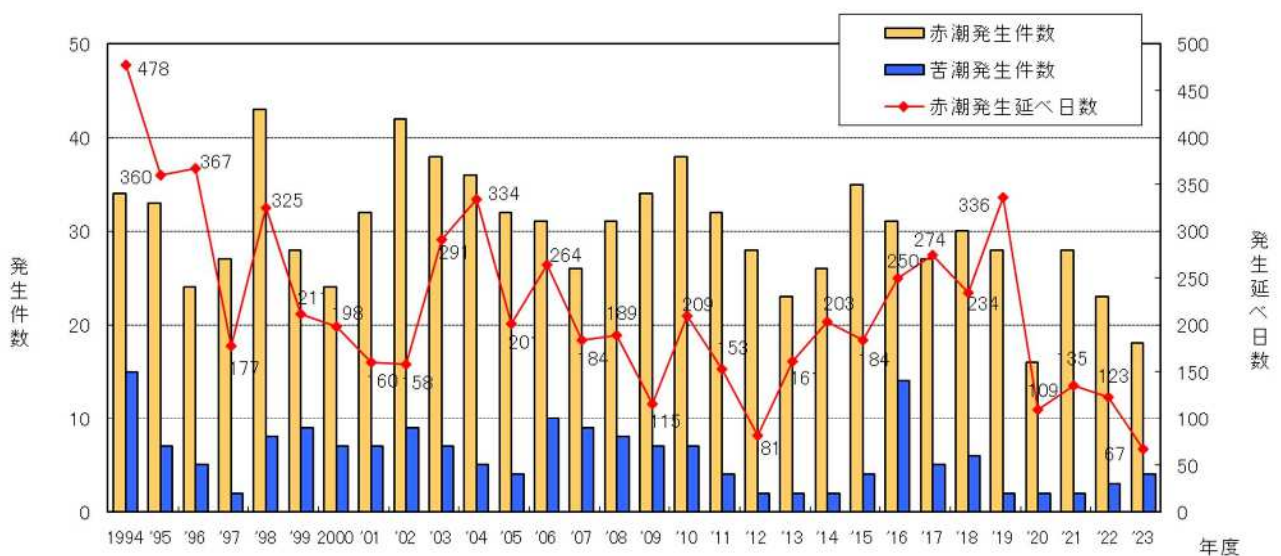
(4) 貧酸素水塊の発生

溶存酸素飽和度(%) 県水産試験場では、30%以下の水域を貧酸素水塊と定義



出典：伊勢・三河湾貧酸素情報(R6 - 7号) (愛知県水産試験場)

(5) 伊勢湾・三河湾における赤潮・苦潮の発生状況

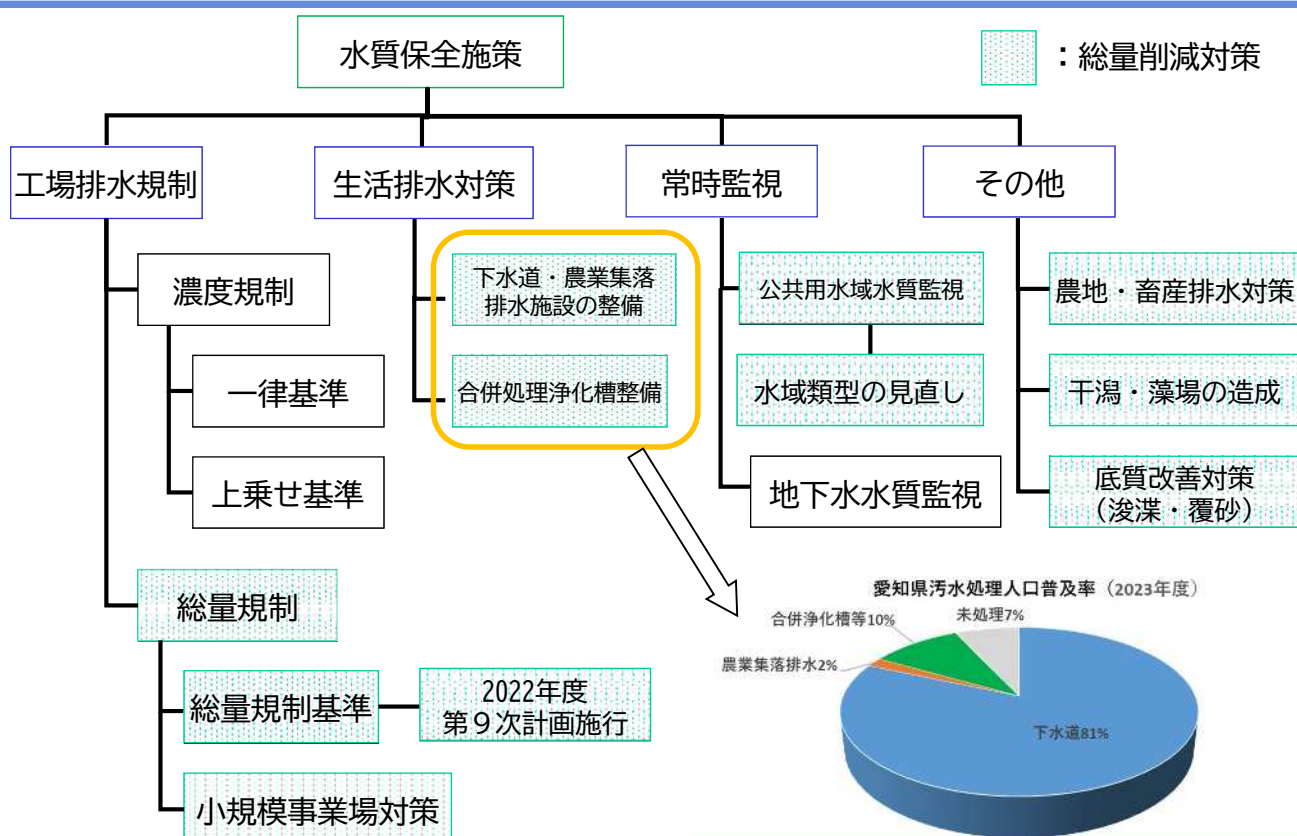


(注) 赤潮として確認できたもののみをカウントしているため、定量評価には留意が必要。

資料：農業水産局調べ

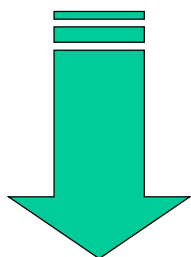
- 1 水循環(水環境)の再生
- 2 愛知県の水環境の状況
- 3 愛知県の水質保全施策
- 4 あいち水循環再生基本構想
- 5 水循環再生のための取組
- 6 流域モニタリング一斉調査

(1)愛知県の水質保全施策



(2)水質保全対策を進める上での視点の転換

場の視点



流れの視点

- 工場の排水規制などの限られた場所や、環境・治水・利水などの**限定した側面を捉えて**、各分野ごとに対策を実施

- 上流から下流までの水の流れを考慮し、**流域全体で水循環の機能に着目した取組**を総合的に実施
- 総合的な視点に立ち、**各主体が連携**して事業を実施

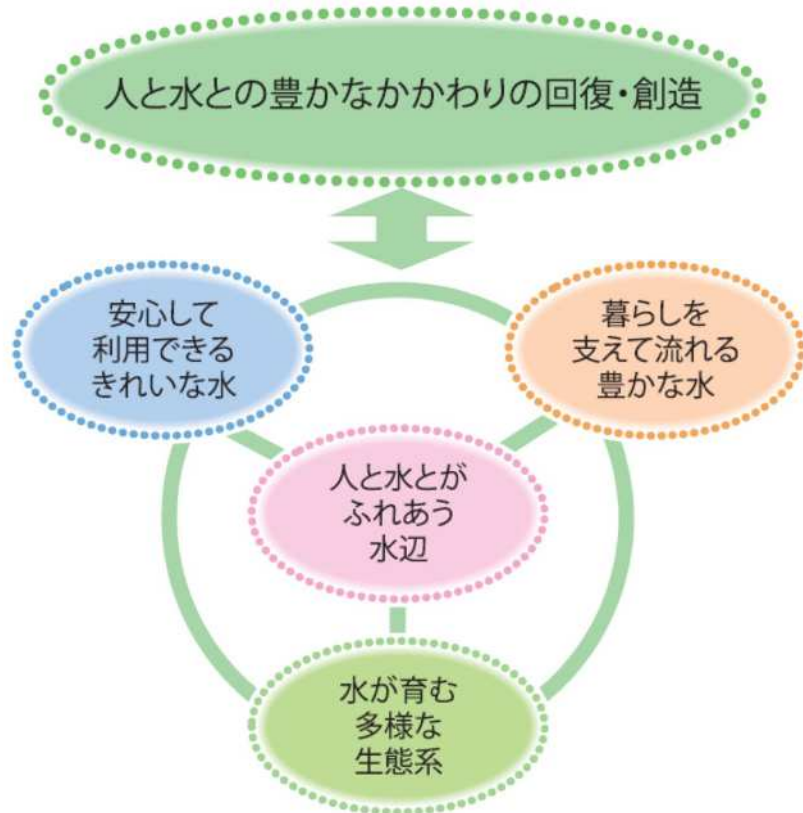
2006年3月に「**あいち水循環再生基本構想**」を策定

あいち水循環再生基本構想と水循環再生地域協議会

- 1 水循環(水環境)の再生
- 2 愛知県の水環境の状況
- 3 愛知県の水質保全施策
- 4 あいち水循環再生基本構想**
- 5 水循環再生のための取組
- 6 流域モニタリング一斉調査

(1) 基本構想の「目標」と「めざす姿」

【目 標】



【めざす姿】

(2) 基本構想のイメージ

取組

●取組の方向性イメージ図

取組活性化のための方策

- ① 環境学習の推進
- ② 情報の共有化
- ③ 県民・事業者・民間
団体・行政等の協働
- ④ 取組の検証・拡充

取組

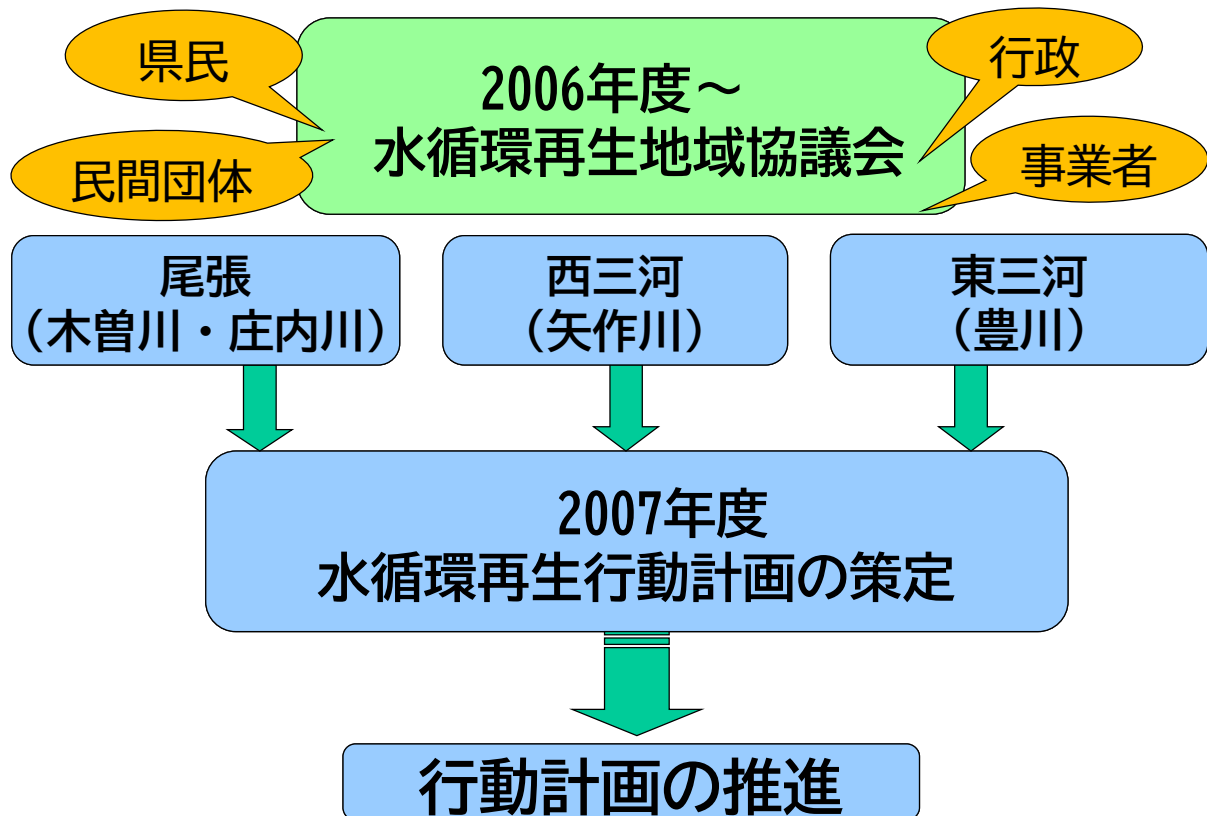
【場所ごとのテーマ】

- ① 森林の整備・保全
- ② 農地保全
- ③ まちづくり
- ④ 海づくり

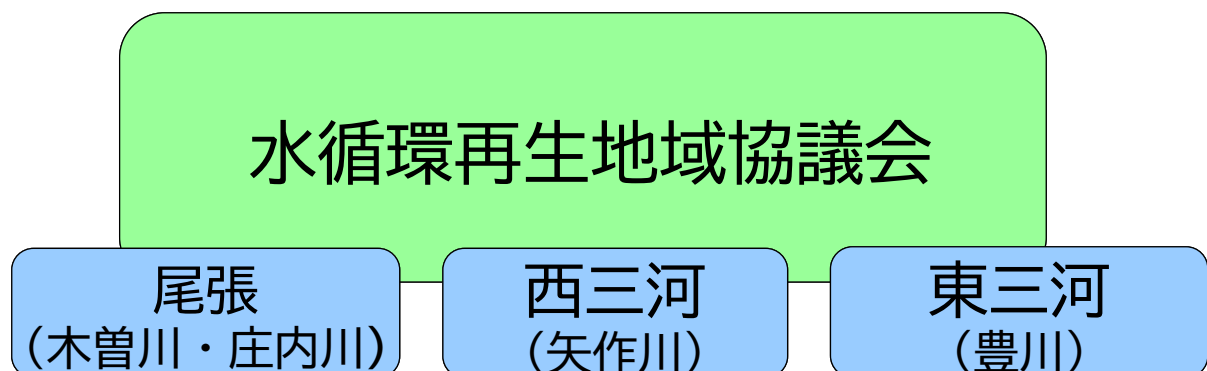
【健全な水循環の機能】



(3) あいち水循環再生地域協議会



(4) あいち水循環再生地域協議会

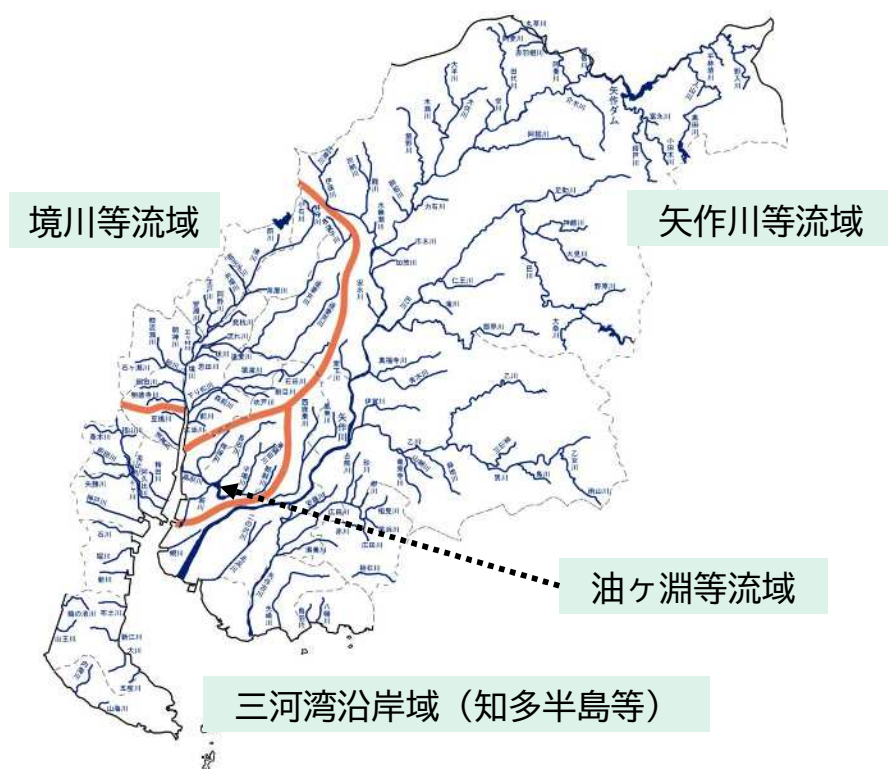


- ・ 2006年度から3地域ごとに毎年1回開催
- ・ 水循環再生に関する取組・活動状況の総括、取組点検指標による行動計画の進捗確認、事例紹介、啓発活動の報告、構成員相互の意見交換、情報交換など

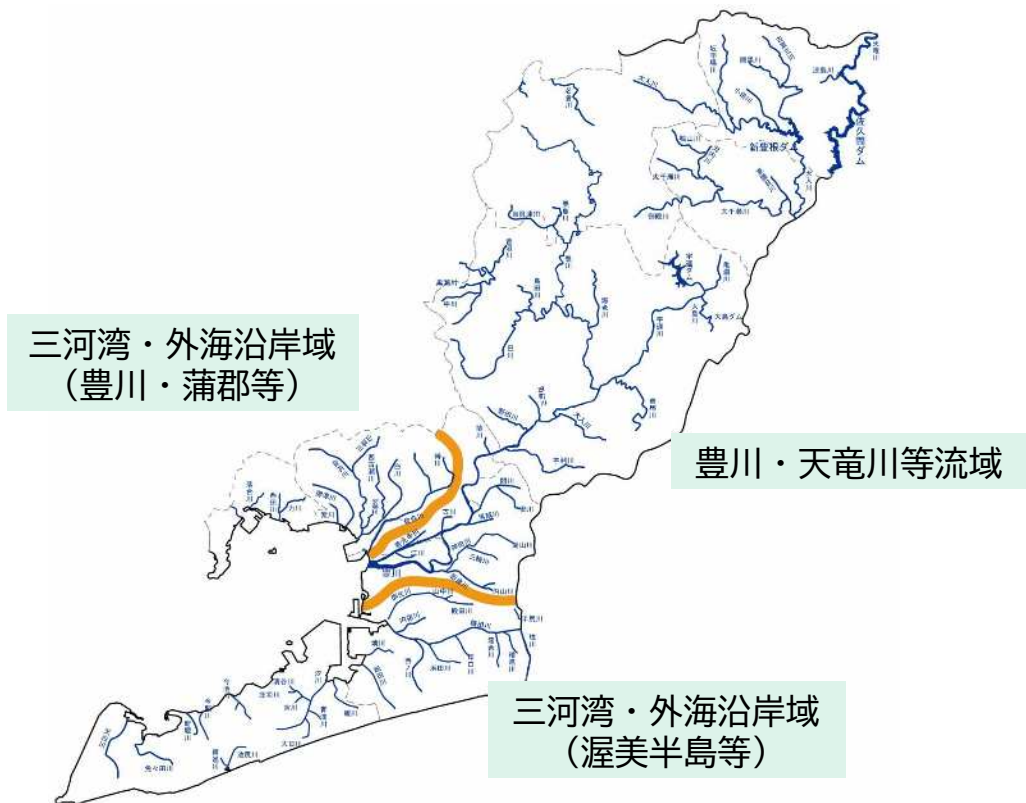
(4)-1 尾張地域



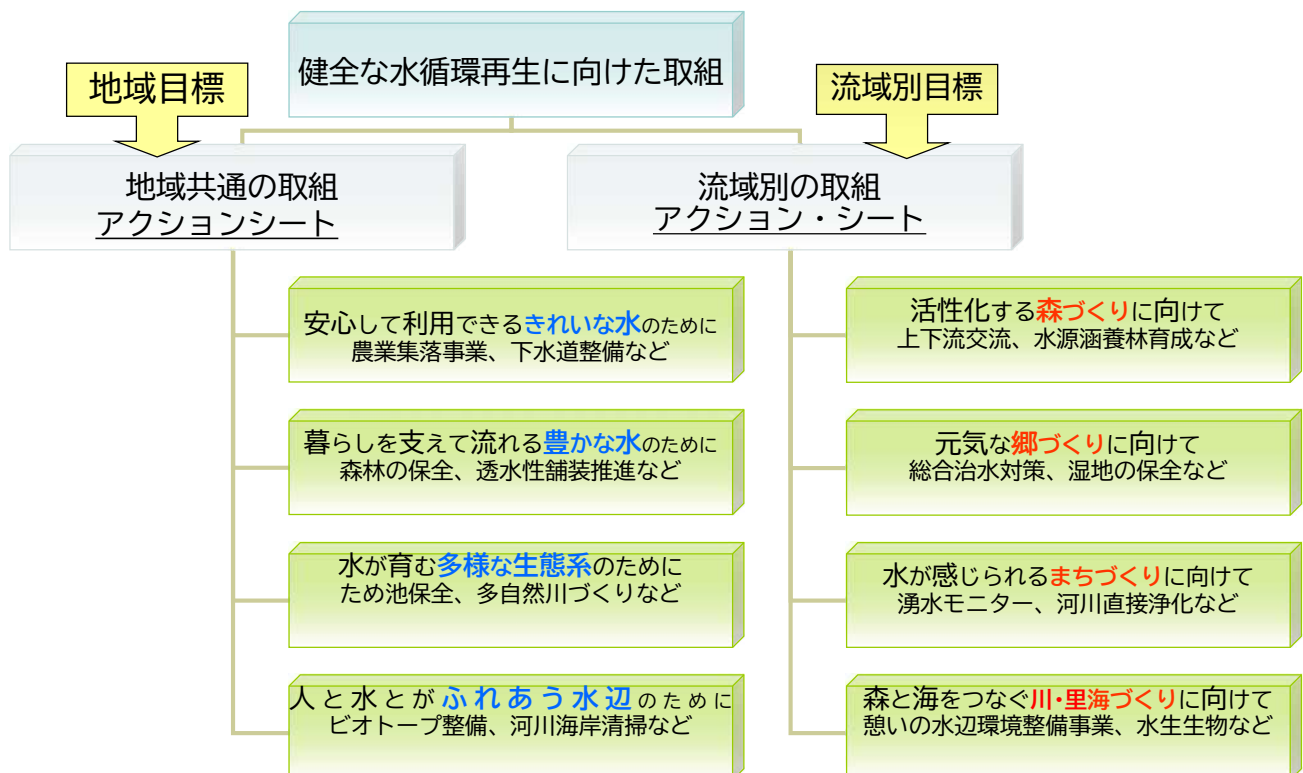
(4)-2 西三河地域



(4)-3 東三河地域



(5) 水循環再生行動計画の構成



(6)現在までの協議会の経緯

- 2005年度 水循環再生基本構想 策定
- 2006年度 水循環再生地域協議会 設立
- 2007年度 水循環再生行動計画（第1次）策定
- 2008年度 取組点検指標 作成
- 2009年度 流域モニタリング一斉調査 開始
- 2011年度 水循環再生行動計画（第2次）策定
- 2015年度 水循環再生行動計画（第3次）策定
- 2020年度 水循環再生行動計画（第4次）策定

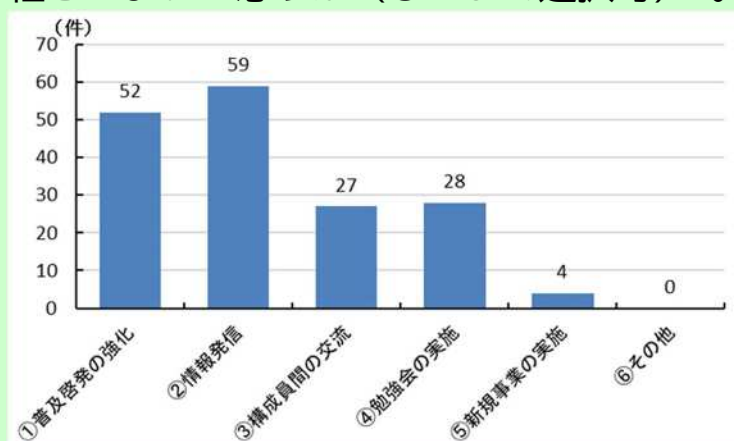
水循環再生行動計画（第4次）に基づく行動を実施

＜毎年度実施＞流域モニタリング一斉調査、
取組点検指標による進捗確認、行動計画の見直し

(6)現在までの協議会の経緯

2021年度に協議会構成員にアンケートを実施

水循環再生地域協議会の活性化に向けて、どのようなことに力を入れて取り組むとよいと思うか（3つまで選択可）。



普及啓発、情報発信にも取り組んでいく。

2022年度から水循環をテーマとした実地での勉強会を開催

(7) 西三河地域と東三河地域の合同開催(案)について

水循環再生地域協議会

尾張
(木曽川・庄内川)

西三河・東三河
(矢作川・豊川)

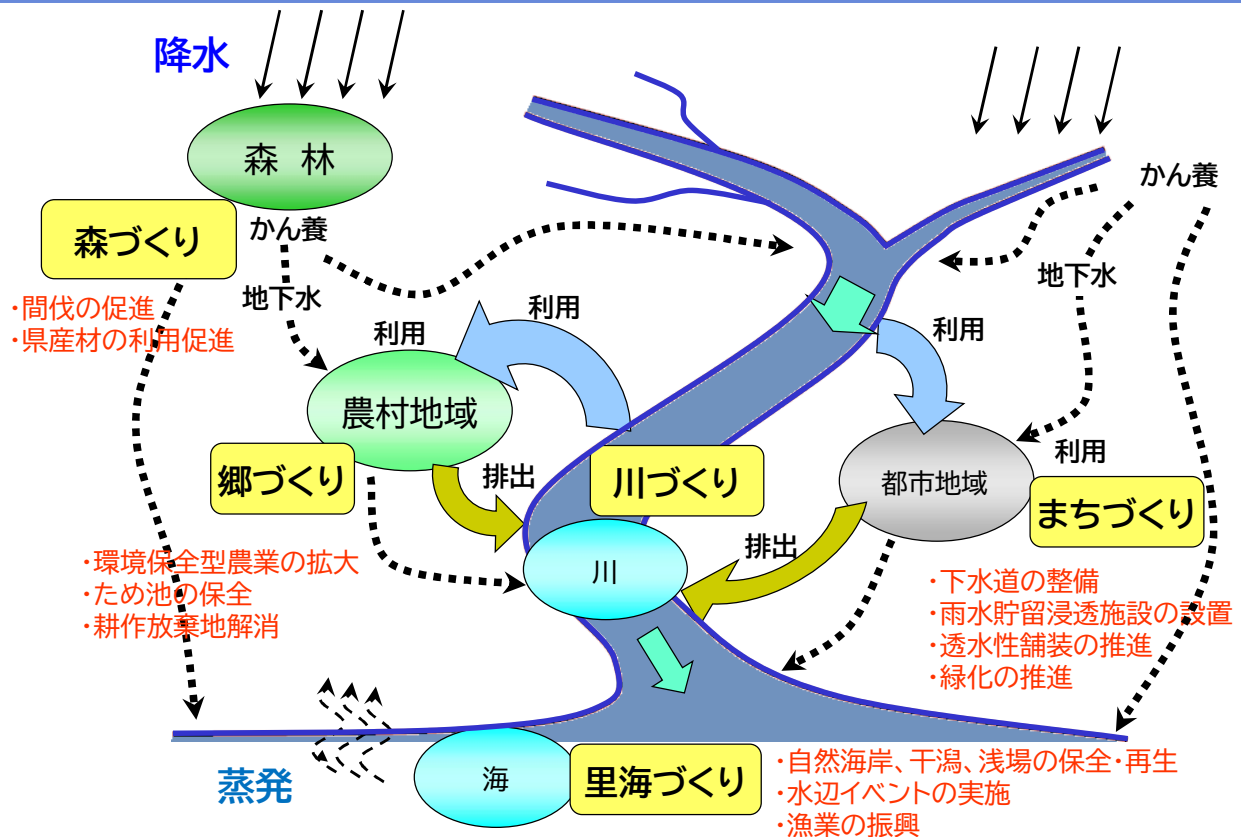
- ・ 流域の特徴や地域の取組事例が2地域で類似性が見られる。
- ・ 各地域間の情報、事例を共有し、意見交換を通して取組の活性化を図る。

今後、行動計画を共通化していくことを含め、
西三河・東三河地域での協議会を合同で開催することを検討

あいち水循環再生基本構想と水循環再生地域協議会

- 1 水循環(水環境)の再生
- 2 愛知県の水環境の状況
- 3 愛知県の水質保全施策
- 4 あいち水循環再生基本構想
- 5 水循環再生のための取組
- 6 流域モニタリング一斉調査

水循環再生の取組



あいち水循環再生基本構想と水循環再生地域協議会

- 1 水循環(水環境)の再生
- 2 愛知県の水環境の状況
- 3 愛知県の水質保全施策
- 4 あいち水循環再生基本構想
- 5 水循環再生のための取組
- 6 流域モニタリング一斉調査

(1)県民参加の取組「流域モニタリング一斉調査」

- (1) 水質(きれいな水)
水の汚れ (CODパックテスト)、水の色、濁り、におい、泡・油膜、水底の感触
- (2) 水量(豊かな水)
水深、流れの変化、流速、湧水 (過去に確認された場所のみ採用)
- (3) 生態系(多様な生態系)
水質階級 (水生生物調査)、魚の調査、
植生調査 (水際、水辺周辺)、
鳥や昆虫の調査、外来種調査
- (4) 水辺(ふれあう水辺)
透視度、ごみの状況、水辺の利用の
しやすさ、水辺への近づきやすさ、
水辺の自然度、水辺景観 (心地よさ)、
水辺での活動 (①散歩、レジャー、
②環境学習 ③環境保全活動)



(2)流域モニタリング一斉調査の調査票

調査票

グループ名	調査日時	年 月 日 ()	午前 午後
氏 名	調査場所	川の名	
参加人数	人	天気	☀ ☁ ☔

調査項目	5	4	3	2	1	評価点	平均点
1.水のきれいさ	安全できれいな水 ← 汚れた水						
1.水の色	無色	中 間	少し色がある	中 間	濃い色がついている	点	
2.水のにおい	透明	中 間	少し臭っている	中 間	とても臭っている	点	
3.水の泡	泡はない	中 間	泡が少しある	中 間	泡が多い	点	
4.水底の状況	心持よい	中 間	少し汚れている	中 間	汚れている	点	
5.水の量	2mg/L以下	3mg/L以下	5mg/L以下	8mg/L以下	10mg/L以上	点	

調査項目	5	4	3	2	1	評価点	平均点
1.流れの速さ	十分な流れがある	中 間	流れがある	中 間	流れがほとんどない	点	
2.流れの変化	流れが急変する	中 間	流れが緩やかになる	中 間	流れがほとんどない	点	
3.水の量	十分な量がある	中 間	流れがある	中 間	流れがほとんどない	点	
4.川の深さ	60cm以上	40cm~60cm	20cm~40cm	10cm~20cm	10cm未満	点	
5.川の流速	60cm/秒以上	40cm/秒~60cm/秒	20cm/秒~40cm/秒	10cm/秒~20cm/秒	10cm/秒未満	点	

備考 ※記入の仕方を記入してください。

注1 水の量は、川の水を採取し、1分間の流れを計測し、その量を記入する。
注2 水の量は、川の水を採取し、1分間の流れを計測し、その量を記入する。
注3 水の量は、川の水を採取し、1分間の流れを計測し、その量を記入する。

調査項目	5	4	3	2	1	評価点	平均点
1.魚のようす	たくさんいる	中 間	たまに見かける	中 間	魚がいない	点	
2.水際の植物	いろいろな植物が	中 間	植物がはえている	中 間	植物はない	点	
3.周辺の植物	木が多くはえている	中 間	緑がある	中 間	緑はない	点	
4.周辺の生き物	いろいろな種類の生き物	中 間	たまに生き物を見る	中 間	生き物はない	点	
5.外来種	いない	少ない	やや多い	多い	外来種が多い	点	
6.水質	I	II	III	IV	何もない	点	

調査項目	5	4	3	2	1	評価点	平均点
1.水辺の自然度	自然な水辺	中 間	水辺を利用できる程度	中 間	人工的な水辺	点	
2.水辺の利用	水辺を利用できる	中 間	水辺を利用できる	中 間	水辺を利用できない	点	
3.水辺への近づきやすさ	水辺に近づくことができる	中 間	水辺に近づくことができる	中 間	水辺に近づくことができない	点	
4.水辺の自然度	自然な水辺	中 間	水辺を利用できる程度	中 間	人工的な水辺	点	
5.水辺の景観	水辺の景観がよい	中 間	水辺の景観がよい	中 間	水辺の景観が悪い	点	
6.散歩・レジャー	多くの人に利用されている	中 間	水辺を利用している	中 間	水辺を利用していない	点	
7.環境学習	多くの人に利用されている	中 間	水辺を利用している	中 間	水辺を利用していない	点	
8.環境保全活動	多くの人に利用されている	中 間	水辺を利用している	中 間	水辺を利用していない	点	
9.透視度	80cm以上	60cm~80cm	40cm~60cm	20cm~40cm	20cm以下	点	

備考 ※記入の仕方を記入してください。

注1 水辺の自然度は、水辺の自然な状態を評価し、その評価を記入する。
注2 水辺の自然度は、水辺の自然な状態を評価し、その評価を記入する。
注3 水辺の自然度は、水辺の自然な状態を評価し、その評価を記入する。

(3)流域モニタリング一斉調査の様子

水生生物の採取



パックテストの実施



透視度の測定



採取した水生生物



**健全な水循環（水環境）を
再生するためには、
みなさんが実施している様々な取組を
長期的に継続して実施し、
相互に連携していくことが不可欠です。**